

環境経営レポート

株式会社トヨタ製作所

2024年度

(対象期間 2024年1月～2024年12月)



目 次

1. 組織の概要,対象範囲	1頁
2. 実施体制	2頁
3. 環境経営方針	3頁
4. 環境経営目標	4頁
5. 環境経営計画	5頁
6. 環境経営目標の実績	6頁
7. 環境経営計画に基づき実施した取組内容の 結果と評価及び次年度の取組内容	7頁
8. 次年度の環境経営目標と環境経営計画	8頁
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	9頁
10. 代表者による全体評価と見直し・指示	10頁

発行日 2025年2月18日

1. 組織の概要,対象範囲

1.1 組織の概要

1) 名称及び代表者名

株式会社トヨタ製作所

代表取締役 豊田 いく子

2) 所在地

本社 〒144-0046 東京都大田区東六郷3-3-8

3) 環境管理の責任者及び担当者連絡先

責任者 大森 茂重

TEL:03-3739-5511(代)

FAX:03-3738-5592

電子メール toyoda-ss@almond.ocn.ne.jp

4) 事業活動内容

OA関連部品及びその他金属加工部品の試作、少量精密板金加工

5) 事業の規模

	事業年度	1月～12月
	単位	2024年
売上高	百万円	163
従業員	人	9
敷地面積	m ²	261.9
延床面積	m ²	308.6

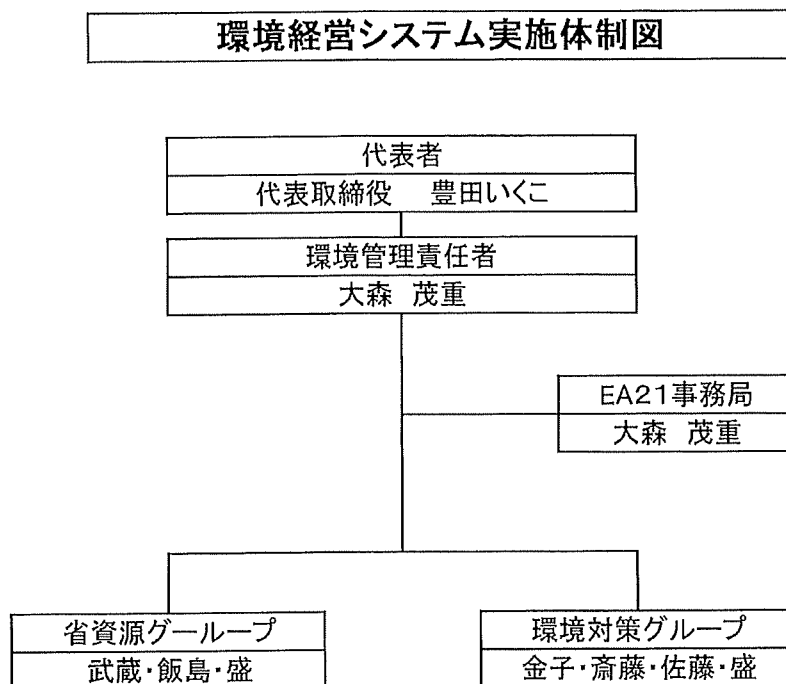
1.2 対象範囲

1) 対象範囲 「1.1 2)所在地」に記載

2) 活動範囲 「1.1 4)事業活動内容」に記載

3) レポートの対象期間及び発行日 表紙に記載

2.実施体制図



役割、責任及び権限表

対象者	役割、責任・権限
代表者	・経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。 ・環境経営に関する方針(環境経営方針)を定め、誓約する。 ・効果的で必要十分な実施体制を構築し、役割、責任及び権限を定め全従業員に周知する。 ・環境経営に必要な資源(人・もの・資金・情報)の用意する。 ・環境経営全体の取組状況を評価し、総括的見直し、必要な指示を行う。
環境管理責任者	・環境経営目標、環境経営計画の作成・承認及び社内周知 ・全社組織へのEA21活動実施の統括 ・EA21活動結果全体のとりまとめ承認及び代表者への報告 ・内外環境コミュニケーションへの対応 ・問題点の是正処置の統括
EA21事務局	・環境管理責任者の補佐 ・EA21活動に関する事務
部門責任者	・環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画内容の部門内周知 ・部門内EA21活動の実施指揮及び部門内EA21活動結果のとりまとめ ・問題点の是正処置、予防処置の実施
従業員	・環境経営目標、環境経営計画等に基づくEA21活動の実施 ・EA21活動に関する提案

3.環境経営方針

環 境 経 営 方 針

〔 企 業 理 念 〕

株式会社トヨタ製作所は、社会と環境の課題解決を目指して事業のイノベーションに挑戦すると共に自らの企業価値向上と従業員の幸福を追求することを企業理念とする。

〔 環境経営の指針 〕

地球環境保全の重要性を認識し、全ての企業活動において【環境技術の向上】
【地域社会との調和】【自然との共生】を目指し、環境経営の継続的改善に取り組みます。

〔行動指針〕

1. 全社員が当社の活動(生産・物流・廃棄)に関わる環境側面を適切な管理に基づき理解し、保全活動に貢献して環境汚染の防止を推進する。
 2. 企業活動に関わる環境関連法規、地域条例、及び当社が同意するその他の要求事項を遵守する。
 3. 環境保全活動を具体的に推進するため、目標を設定、計画し定期的に見直すことにより活動の改善を行う。
 4. 当社の企業活動の環境保全重点テーマは次の項目とする。
 - ①生産設備、付帯設備機器の省エネ化により電気使用量の削減に努めます。
 - ② 化石燃料(ガソリン)の使用量の削減に努めます。
 - ③廃棄物削減に努めます。
 - ④生産時に発生する騒音、振動の低減に努めます。
 - ⑤水使用量の削減に努めます。
 5. 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善
 - ①製品の生産性の向上に努めます。
- この環境経営方針は、全従業員に周知すると共に、一般にも公開します。

2020年4月1日

株式会社トヨタ製作所

代表取締役 豊田いく子

4. 環境経営目標

基準年度2021年度									
No	環境経営方針項目	環境経営目標項目	単位	基準値	CO2 換算係数	単年度目標		中長期目標	
				(2021年度)		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
原単位指標		売上高(百万円)		166.3					
1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量				基準値に対し 1.5 %削減	基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 2.5 %削減	基準値に対し 3 %削減
		kWh	85,643	0.462	84,358	83,930	83,502	83,074	
		kg-CO2	39,567	(東電)	38,974	38,776	38,578	38,380	
		ガソリン使用量			基準値に対し 1.5 %削減	基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 2.5 %削減	基準値に対し 3 %削減	
		L	2,902	2.32	2,858	2,844	2,829	2,815	
		kg-CO2	6,733		6,632	6,598	6,564	6,531	
		CO ₂ 総量計(kg-CO ₂)	kg-CO ₂	46,555		45,856	45,856	45,856	45,856
		CO ₂ 原単位(kg-CO ₂ /百万円)	kg-CO2/百万円	249.9		246.1	244.9	243.6	242.4
2	一般廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量				基準値に対し 1.5 %削減	基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 2.5 %削減	基準値に対し 3 %削減
		kg	176		173	172	172	171	
		kg/百万円	0.94		0.93	0.93	0.92	0.92	
3	水使用量の削減	水道使用量				基準値に対し 1.5 %削減	基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 2.5 %削減	基準値に対し 3 %削減
		m ³	114		112.3	111.7	111.2	110.6	
		m ³ /百万円	0.61		0.60	0.60	0.60	0.59	
	環境に配慮した製品に関する取組 社外流出クレームの低減	件数	3		3	3	3	3	

※二酸化炭素排出係数は平成29年東京電力エナジーパートナーの調整後排出係数
※年度表記は当社の1月～12月の会計年度と同一期間を適用した。
※化学物質は使用していません

5. 環境経営計画

2024年度

環境経営計画

No	環境経営方針項目	環境経営目標項目	目標達成手段	責任部門 責任者	スケジュール 2024年1月～2024年12月
1	二酸化炭素排出量の削減	1) 電力使用量の削減	生産設備の適正管理 空調温度の適正化(冷房28℃、暖房20℃) 照明器具の見直し(LED照明等) 生産工程の待機時間 工程改善による残業時間削減	大森	(左記達成手段全て) →
		2) 化石燃料使用量の削減	ガソリン 停車時のアイドリングストップの励行 急加速・急停車の防止 定期的にタイヤ空気圧をチェック 冷房の控え目使用 車両以外の交通手段を併用	盛	(左記達成手段全て) →
		CO ₂ 総量計(kg-CO ₂)	電力及び化石燃料の削減の施策を実施	盛	(左記達成手段全て) →
		CO ₂ 原単位(kg-CO ₂ /百万円)			→
2	廃棄物排出量の削減	一般廃棄物排出量の削減	分別管理の周知徹底 ミスコピーの削減 ミスコピーの裏紙使用 シュレッター排紙のリサイクル化 電子メディアによるペーパーレス化	佐藤	(左記達成手段全て) →
3	水使用量の削減		節水の意識を高める 節水シールの貼り付けとポスター掲示	武蔵	(左記達成手段全て) →
4	社外流出クレームの低減		プロセス毎の不良率の把握 製造工程での不良率改善推進 出荷前の確認	大森	(左記達成手段全て) →

6. 環境経営目標の実績

基準年度2021年度

No	環境経営方針項目	環境経営目標項目	単位	基準値	CO2 換算係数	2024年度		
				(2021年度)		目標	実績	評価
1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	電力使用量			基準値に対し 1.5 %削減		○
			kWh	85,643	0.462	84,358	84,004	
		化石燃料使用量の削減	kg-CO2	39,567	(東電)	38,974	38,810	100%
			ガソリン使用量			基準値に対し 1.5 %削減		○
			L	2,902	2.32	2,858	1,972	
		CO ₂ 総量計 (kg-CO ₂)	kg-CO ₂	6,733		6,632	4,576	145%
				46,555		45,856	43,812	○ 104.7%
		CO ₂ 原単位 (kg-CO ₂ /百万円)	kg-CO ₂ /百万円	249.9		基準値に対し 1.5 %削減 246.1	268.8	× 91.6%
2	一般廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量	kg	176		基準値に対し 1.5 %削減 173	177	×
			kg/百万円	0.94		0.93	1.09	86%
3	水使用量の削減	水道使用量	m ³	114		基準値に対し 1.5 %削減 112.3	163.0	×
			m ³ /百万円	0.61		0.60	1.00	60%
	環境に配慮した製品に関する取組 社外流出クレームの低減	件数		3		3	3	○ 100%

※二酸化炭素排出係数は平成29年東京電力エネルギーパートナーの調整後排出係数0.462kg-CO₂/kWhを適用した。

※年度表記は当社の1月～12月の会計年度と同一期間を適用した。

○:目標達成率100%以上 △目標達成率:100%未満～98% ×:目標達成率98%以下

※化学物質は使用していません。

基準年売上	186.3	百万円
24年度売上	163	百万円

7.環境経営計画に基づき実施した取組内容、環境経営計画の取組結果と評価

No	環境経営方針項目	環境経営目標項目	目標達成手段	施策実施状況	責任部門 責任者	評価	環境経営計画に基づき実施した取組内容
1	二酸化炭素排出量の削減	1) 電力使用量の削減	生産設備の適正管理 空調温度の適正化(冷房28℃、暖房20℃) 照明器具の見直し(LED照明等) 生産工程の待機時間 工程改善による残業時間削減	■ ■ ■ ■ ■	大森	○	勉強会等で周知し左記の取り組みを実施することができた。 生産設備の適正管理、工程改善ではネスティング(多数個)どり改善による設備稼働率の向上及び正数改善、省エネに寄与できた。空調温度の適正化では前年度同様に朝礼時の呼びかけを実施し更なる徹底を図った。
		2) 化石燃料使用量の削減	ガソリン 停車時のアイドリングストップの励行 急加速・急停車の防止 定期的なタイヤ空気圧をチェック 冷房の控え目使用 車両以外の交通手段を併用	■ ■ ■ ■ ■	盛	○	下記①②継続的に実施できた。 ①社有車のエコ運転機能をフル活用し運転することができた。 ②エコドライブはマンネリ化の傾向があるのでエコドライブの10のすそめを掲示し意識の高揚を図った。
		CO ₂ 総量計(kg-CO ₂)		■	盛	○	総量は目標達成しているが、売り上げの大きな落ち込みが原単位で目標は大きく達成なし。ガソリン使用量は社有車のエコ運転機能をフル活用してタイヤ空気圧をチェックなどの車のメンテ等で達成率145%であり大きく貢献している。
		CO ₂ 原単位(kg-CO ₂ /百万円)		■			
2	廃棄物排出量の削減	1) 一般廃棄物排出量の削減	分別管理の周知徹底 ミスコピーの削減 ミスコピーの裏紙使用 シュレッター排紙のリサイクル化 電子メディアによるペーパーレス化	■ ■ ■ ■ ■	佐藤	○	デスクトップ上で記入士のミスがないか確認しコピーミスの削減や裏紙使用は朝礼時に徹底されている。文紙のリサイクルではシュレッター後の紙をビニール袋に詰め製品の緩衝材として使用及び分別管理を推進したが廃棄物の総量は増加した。
3	水使用量の削減		節水の意識を高める 節水シールの貼り付けとポスター掲示	■ ■ ■	武蔵	○	節水シールの貼り付けとポスター掲示及び朝礼で再度呼びかけを行い意識付けができたが総量は増加した。チャージャー交換時水の入替えのため
4	社外流出クレームの低減		プロセス毎の不良率の把握 製造工程での不良率改善推進 出荷前の確認	■ ■ ■	大森	○	プロセス毎の不良率の把握、出荷前の確認(バーコード利用)は継続して行っている。製造工程での不良率改善推進としては工程別の不良を把握し重点管理を行っている。

施策の実施状況: ■ 実施 △1部実施 □未実施

評価: ○取り組みはよくやられている ×取り組みが不十分

8. 次年度の環境経営目標と環境経営計画

2025年度

No	環境経営方針項目	環境経営目標項目	環境経営目標	目標達成手段	責任部門 責任者	スケジュール
						2025年1月～2025年12月
1	二酸化炭素排出量の削減	1) 電力使用量の削減	電力使用量 83,930 (kWh) 38,776 (kg-CO2)	生産設備の適正管理 空調温度の適正化(冷房28℃、暖房20℃) 照明器具の見直し(LED照明等) 生産工程の待機時間 工程改善による残業時間削減 待機時間の調査	大森	(左記達成手段全て) →
		2) 化石燃料使用量の削減	ガソリン使用量 2,844 (kWh) 6,598 (kg-CO2)	アイドリングストップの励行 急加速・急停車の防止 定期的にタイヤ空気圧をチェック 冷房の控え目使用 車両以外の交通手段を併用	盛	(左記達成手段全て) →
		CO ₂ 総量計	45,856 (kg-CO2)	電力・化石燃料の上記施策に取り組む	盛	(左記達成手段全て) →
		CO ₂ 原単位	244.9 kg-CO2/百万円			→
2	廃棄物排出量の削減	1) 一般廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量 0.93 (kg/百万円)	分別管理の周知徹底 ミスコピーの削減 ミスコピーの裏紙使用 シュレッター排紙のリサイクル化 電子メディアによるペーパーレス化 削減のための検討会(アイデア出し)	武蔵	(左記達成手段全て) →
3	水使用量の削減		水使用量 0.6 (m ³ /百万円)	節水の意識を高める 節水シールの貼り付けとポスター掲示 削減のための検討会(アイデア出し)	佐藤	(左記達成手段全て) →
4	社外流出クレームの低減		3 (件)	プロセス毎の不良率の把握 製造工程での不良率改善推進 出荷前の確認	大森	(左記達成手段全て) →

9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

I 遵守義務のある主な法規関係

区分	環境関連法規等名称	遵守状況の確認・評価	
		チェック日	結果
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(産業廃棄物の適正処理)	2024/12/1	○
	大田区廃棄物の処理およびリサイクルに関する条例	2024/12/1	○
資源循環 (リサイクル)	特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	2024/12/1	○
	使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	2024/12/1	○
騒音・振動	騒音規制法	2024/12/1	○
	振動規制法	2024/12/1	○
大気汚染	フロン排出抑制法	2024/12/1	○

当社に係る環境関連法規等は上記の通りですが、遵守状況を2024年12月に確認した結果、違反はありませんでした。また、関連機関からの違反等の指摘、環境関連の訴訟も過去3年間ありません。なお、外部からの苦情は活動期間中にはありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直し・指示

代表者による全体の評価と見直し・指示 結果報告書

見直し実施日	2025年2月16日 (☒ 定期見直し ☐ 臨時見直し)		
見直し対象期間	2024年01月01日～2024年12月31日		
出席者	豊田いく子社長、環境管理責任者		場所 本社工場 2F 会議室
見直しに必要な情報	①環境関連法規の遵守状況(環境関連法規等取りまとめ表兼遵守確認評価表による) ②環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況、その評価結果(環境経営計画兼実績書による) ③適用範囲、実施体制 ④問題点の是正処置及び予防処置の結果(是正／予防処置報告書による) ⑤外部からの環境に関する苦情等の受付結果(外部コミュニケーション記録による) ⑥その他(法規制の動向や取引先からの「グリーン調達」の情報等)		
代表者による 評価 経営的観点	【環境経営システムが有効に機能しているか】(①、③、④、⑤等を踏まえて評価) 全体的には環境経営システムが有効に機能している。		
	【環境経営への取組が適切に実施されているか】(②等を踏まえて評価)		
	目標項目	目標達成状況	経営計画実施状況
	二酸化炭素排出の削減	×	○
	廃棄物排出量の削減	×	○
	水使用量の削減	×	○
	社外流出クレームの低減	○	○
代表者による 見直し 変更の必要性の有無・変更に必要な具体的指示事項	【環境経営方針】 変更の必要性 : ☐ 有 ☒ 無		
	現在の環境経営方針を維持する。		
	【環境経営目標及び環境経営計画】 変更の必要性 : ☐ 有 ☒ 無		
	目標、経営計画を維持する		
	【実施体制】 変更の必要性 : ☐ 有 ☒ 無		
	現在の実施体制を維持する。		
	【環境経営システム】 変更の必要性 : ☐ 有 ☒ 無		
現在の環境経営システムを維持する。			
【総括】 原単位での環境目標を定めているが2024年度は売上げの減少で原単位目標が未達成となっている。本業の改善をすることによって環境負荷の削減につながることが浸透してきている。環境経営システムの中で本業の改善をさらに進めていく。			